

故・玉井佐一先生を偲ぶ

(株)第一コンサルタンツ
代表取締役社長 右城 猛

1. まえがき

2007年9月2日(日曜日)、約500人の会葬者に見守られる中で、故・玉井佐一先生の告別式が高知市天神町の真如寺で執り行われた。

玉井先生は、検診クリニックで肝臓に腫瘍が見つかり、8月16日に国立高知病院に入院し、22日に摘出手術をされた。

28日に御見舞いに伺ったときは、術後とは思えないほど血色が良く、とても元気であった。「腫瘍は10cm程度の大きさに成長していたようだが、完全に摘出できたので将来ガンが転移する恐れはなく、手術は成功した。10日もすれば退院できるだろう」という話であった。

ところが、29日の夜中から高熱が出だし、30日の午前4時頃から下痢が始まり、そのために急激に衰弱し午前11時53分に逝去されたとのこと。原因はウイルス感染のようだ。

8月1日に満77歳になられたばかりで、まだまだご活躍されと思っていたのに、本当に残念である。

私のアルバムをめくりながら、玉井先生にお付き合いしていただいた21年間を振り返ってみたい。

2. 第一コンサルタンツに入社するまで

私が玉井先生を知ったのは、1986年である。恩師に当たる徳島大学の村上仁士教授が高知に来られたとき、玉井先生を紹介していただいたのが最初の出会いであった。

玉井先生と村上先生は同じ海岸工学のご専門で、同じ時期に京都大学で博士の学位を取得された仲であった。

私は、その年に「中小橋梁の計画」という専

門書を上梓し、その本の出版記念祝賀会を12月に、新阪急ホテルで行ったのであるが、そのときの発起人の一人に玉井先生に名前を連ねて戴いた。



「中小橋梁の計画出版記念祝賀会」(高知新阪急ホテル)に発起人として参列した玉井佐一先生、村上仁士先生(1986年12月)

1987年頃だったと思うが、建設省土佐国道工事事務所(現・国土交通省土佐国道事務所)から、国道55号吉良川地区の道路改良設計の業務を受託していた。海岸側にバイパスを計画するもので、海岸護岸を海側に寄せることで、海浜への影響を予測する必要があった。

私は海岸工学に関しては知識が全くなかったので、玉井先生に現地を調査していただき、いろいろとご指導いただいた。

砂浜が波に削られ、砂浜に段がつくことをカスプと言うようであるが、現地を調査した際に玉井先生に初めて教えられた。玉井先生は、カスプ形成のメカニズムや海浜浸食の予測に関する研究をたくさんされており、貴重なご意見や資料を賜ることができた。

1993年12月に高知グリーン会館で高知県

土木技術セミナーを開催した。当時、ルーマニアからミハイル・ポペクス博士という地すべりの研究では世界的な大家が徳島大学に客員教授として来られていた。日本での活動実績をつくる必要があるので、高知で講演の機会をつかって欲しいと、恩師の山上教授から頼まれたので、セミナーを企画したのである。

ミハイル・ポペクス先生以外に玉井先生にもこのセミナーの講師をしていただいた。



高知県土木技術セミナー (1993年12月10日)

高知大学の定年は63歳という規程になっており、玉井先生の定年は1994年3月と決まっていた。玉井先生は、高知県下では防災工学の第一人者であったので、建設省や高知県の主催する専門委員会の委員長をいくつも引き受けておられた。委員長への要請は、先生の専門的知識の深さもさることながら、誰にも好かれるお人柄によるものと思われる。

玉井先生は、教え子にとっても人気があった。1994年1月2日、構営技術コンサルタントの橋口社長と一緒に、新築して間もない西塚ノ原の先生のご自宅に押しかけた。すでに、高知大学の卒業生が数人集まって盛り上がっていた。徳子夫人や娘さんが歓待してくれたことを、つい最近の出来事であったかのように思い出す。

定年後の就職先として、都会の私立大学から教授の誘いがきていたようであるが、「第一コンサルタントをアカデミックな技術力の高い会社にしたかったので、力になって欲しい」とお頼みし、1994年4月から取締役技師長として就任していただくことになった。



西塚ノ原に新築したばかりの玉井先生のお宅

(1994年1月2日)



玉井先生の定年退官記念講演

高知大学農学部(1994年3月19日)



高知三翠園での定年退官記念祝賀会

(1994年3月19日)

3. 第一コンサルタンツでの思い出

玉井先生は1994年4月に取締役技師長として第一コンサルタンツに入社, 1997年7月から常務取締役, 2005年6月に取締役を退任されてからは顧問という立場で技術指導をしていただいた。

偶数年度は海外, 奇数年度は国内と決めて行っていた社員旅行, 秋に開催していた社内技術検討会, お酒を飲みながらの歓談など楽しい光景が次々と思い出される。

1998年のオーストラリア旅行には, 徳子夫人と同伴で参加され, 私の家内も随分お世話になったことであった。



シンガポールへの社員旅行(1996年6月)



香港への社員旅行(1994年5月)



九州・宮崎への社員旅行
(1999年5月)



オーストラリアへの社員旅行(1998年6月)



オーストラリアへの社員旅行(1998年6月)



ハワイへの社員旅行(2004年6月)
ワイキキの浜をバックに



ハワイ島のキラウエア火山
(2004年6月12日)



サンセットディナークルーズ(2004年6月11日)



フィリピンのベンゲット地方から(株)第一コンサルタンツに
研修生で来ていた Dick の送別会(1997年3月)



矢野男顧問の藍綬褒章受章記念祝賀会の後、先生馴染みのスナックでカラオケを熱唱。左から玉井、汲田、佐藤、右城、山下の飲んべえ (2004年2月21日)。



柿本(旧姓・黒島)君の結婚披露宴(2005年4月)



牧野植物園で開催した第10回社内技術研検討会 (2004年10月)



毎週水曜日の夕方6時から若者を対象に玉井塾を開催 (2007年1月)



第10回社内技術研検討会の最後の講評 (2004年10月)

2006年からは、毎週水曜日の夕方、玉井塾が開かれていた。先生は、向学心に燃えた若者がいることをとても喜んでおられ、孫のような若い社員達に、河川工学や海岸工学を講義されていた。先生の慈愛に満ちた指導に若者達は惹かれていたのである。

4. 社外での活動

玉井先生は、社外では学識経験者として高知県公共事業再評価委員会委員長、四万十エコ・リバー研究会座長、新堀川生態系検討委員会座長などの重席を担っておられた。

その一方で、高知県建設職業能力開発短期大学校教授として若手技術者の育成、高知県橋梁会会長、高知県技術交流会会長として高知県の

土木技術のレベルアップに尽力された。

玉井先生がいますと、自然とそこに人の輪ができ、絆が育まれた。ずるいことをする人がいると教育的指導と称して、両方の手首をくるくる回してから右手人差し指をその人に向けるのが先生の愛情表現であった。



橋梁会研修会後の打ち上げ



第3回高知県土木技術セミナーの講師(1995年)



高知県建設職業能力開発短期大学卒業式(2002年3月)



橋梁会研修会で神戸，赤穂(1999年7月)



橋梁会研修会での別府地獄巡り(2005年7月16日)



橋梁会研修旅行で青の洞門(2005年7月15日)



橋梁会の研修会で砥部焼の磁器製作に挑戦
(2006年6月23日)



橋梁会研修旅行での湯布院(2005年7月16日)



橋梁会の研修会で西条のアサヒビール園
(2006年6月)



血の池地獄の足湯 (2005年7月16日)



「右城猛社長就任祝賀会」で明坂氏と歓談
(2007年8月4日)



「右城猛社長就任祝賀会」で愛橋の安見氏と歓談
(2007年8月4日)



「右城猛社長就任祝賀会」で中締め音頭
(2007年8月4日)

5. 告別式での弔辞

玉井先生の告別式で、第一コンサルタンツを代表して弔辞を読ませていただいた。私にとっては初めての経験であった。弔辞は下記の通りである。

弔 辞

玉井先生、先生とお話しができたのは8月28日が最後になりました。病院へお見舞いに伺いますと、ベッドから起き上がり、椅子に座るようにと私たちに気遣ってくれました。手術からまだ6日しかたっていないというのに顔色

がとてもよく、病人とは思えなほどお元気で、病状や手術のことを丁寧に説明して下さいました。それが、この度の突然の訃報、本当に驚きと悲しみで一杯です。

私が玉井先生に初めてお目にかかったのは、昭和61年でした。仕事の相談にのっていただくため、よく高知大学の研究室にお邪魔しました。

先生は、テニス、酒、カラオケをこよなく愛しておられました。先生と高知市の繁華街を歩くといろんな職種、立場の方から声をかけられ、先生のお顔の広さに驚かされました。先生に会いたいと思うと、国際ホテルの地下にあったセルビナというスナックに行けば大抵会うことができました。一日に一度は、この店に顔を出され、お客さんと一緒にお酒を飲み、歓談し、カラオケを歌っておられました。先生が好んで歌っておられたのは「わが人生に悔いはなし」という歌でした。

鏡に映る わが顔に
グラスをあげて 乾杯を
たった一つの 星をたよりに
はるばる遠くへ 来たもんだ
長かろうと 短かかろうと
わが人生に 悔いはない

この世に歌が あればこそ
こらえた涙 いくたびか
親にもらった 体一つで
戦い続けた 気持よさ
右だろうと 左だろうと
わが人生に 悔いはない

この歌詞は、玉井先生の人生そのものであったのだらうと思います。

先生は、平成6年3月に高知大学を定年退官されました。私達は、第一コンサルタンツをアカデミックな技術力の高い会社にしたという夢を持っていましたので、先生にお願いし、

取締役技師長に就任していただきました。平成9年からは常務取締役として会社経営にもお骨折りをいただきました。平成17年に取締役を退任されてからは、顧問の立場で、ご意見や技術指導を賜っていました。

第一コンサルタンツでは、毎週水曜日の夕方、玉井塾が開かれていました。先生は、向学心に燃えた若者がいることをとても喜んでおられ、孫のような若い社員達に、河川工学や海岸工学を講義されていました。先生の慈愛に満ちた指導に若者達は惹かれたのです。

社外では学識経験者として、高知県公共事業再評価委員会委員長、四万十エコ・リバー研究会座長、新堀川生態系検討委員会座長などの重責を担っておられました。その一方で、高知県建設職業能力開発短期大学教授として若手技術者の育成、そして高知県橋梁会会長として高知県の土木技術のレベルアップに尽力されました。

玉井先生、本当にご苦労様でした。お世話になりました。ありがとうございました。いま、私達は公共事業の削減で大変厳しい環境に置かれています。玉井先生が最も大切にされた絆、信頼関係をみんなで守り、力を合わせて乗り切ります。

残念ですが、お別れを言わねばなりません。玉井先生、どうぞ安らかに眠りください。

平成19年9月2日

株式会社第一コンサルタンツ
代表取締役社長
右城 猛

6. あとがき

私は、それまで勤務していた四国建設コンサルタントを辞め、1986年に4月に第一測量設計コンサルタント(現・第一コンサルタンツ)に入社した。

徳島大学の恩師である村上仁士先生から、「高知で仕事をするのであれば、高知大学の玉

玉井 佐一氏(たまい
さいち)高知大名普教
授、防災水工学)30日午
前11時53分、急性呼吸不
全のため高知市内の病院
で死去、77歳。大分市出
身。自宅は高知市西塚ノ
原38の4。葬儀・告別式
は9月2日午後0時半か
ら2時まで、高知市天神
町19の32の真如寺で仏
式。喪主は妻徳子(とく
こ)さん。
昭和42年高知大農学部
助教、57年4月から同
学部教授。同大評議員、
県公共事業再評価委員
会委員などを歴任。県の
「新堀川生態系検討委員
会」の座長も務めた。

(8月31日付・高知新聞朝刊より)

井先生と知り合いになっているのがよい」と言
って紹介していただいたのが、玉井先生とお付
き合いさせていただききっかけであった。それ
から21年間お世話になった。

私が人生の岐路に立ったとき、ご自身の経験
に基づいて適切なアドバイスをいつもしてく
れ、勇気づけてくれた。

しかし、ご自身のことで他人に迷惑や心配を
かけることはしなかった。最後にガンに冒され
たときも、入院する直前までそのことを誰にも
話すことはなかった。

玉井先生は温厚で慈愛に満ちていたが、打算
的な人、礼儀をわきまえない人、思いやり
に欠けた人に対しては厳しかった。数少ない真
の教育者であった。

玉井佐一先生のご冥福を心よりお祈り申し
上げます。合掌。

[2007年9月4日・記]